

チーム名	村上ゼミteam大分	大学・学部	跡見学園女子大学 マネジメント学部	大分ステージ 本選出場
プラン名称	小さなおとぎの城下町～もし女子大生が玖珠町をマネジメントしたならば～			
リーダー名	中島 みのり	テーマ	※選択したテーマに○をつけてください。 ( ○ ) ①若者を惹き付ける「観光まちづくり」 (     ) ②訪日外国人を惹き付ける「観光まちづくり」	大分県知事賞 受賞
指導教職員名	村上 雅巳			
メンバー名	穴戸 めぐみ 富田 美咲			

## 小さなおとぎの城下町

～もし女子大生が玖珠町をマネジメントしたならば～

童話の主人公の銅像だけが置いてある日本一小さな城下町、玖珠町。この町に複数ある童話の主人公の「ももたろう」や「かぐや姫」などの銅像を活かした「まちづくり」を私たち女子大生がマネジメントするというプランである。

例えば、「ももたろう」をテーマにした飲食店ならば、桃を使ったデザートを開発したり、「かぐや姫」をテーマにした建物ならば竹を使ってみたりなどと童話とリンクした商品を開発し、ゆくゆくは販売し、とっておきの一品とする。これは、昭和の町で成功した豊後高田市が取り入れている「一店一品」に近いものだが、本プランでは、「銅像一品」として取り入れる。

地元の人たちだけでこのプランを進めるのではなく、若者である学生を巻き込む。これが本プランの重要な点だ。

### 学生メリット

経験値を上げられる  
自らの実力を実感できる  
成功することにより自信に繋がる

SNSなどで宣伝してもらえる  
若者の活気で町全体が元気に！  
玖珠町の認知度向上

### 玖珠町メリット

## 1. 提案プランにおける問題認識

大分県玖珠町には、以下のような問題がある。  
町のいたるところに童話の主人公の「ももたろう」や「かぐや姫」などの銅像といった他にはない観光資源があるにもかかわらず、うまく活用ができない。  
大分県玖珠町が「童話の里」として、認知されていない。  
町全体にあまり活気がない。  
地元の人も含め、若者が少ない。

## 2. 問題の解決策

玖珠町を学校で学んだ専門知識や技術などを活かす場として提供し、童話をモチーフにした商品を開発したり、経営、設計など、学生の斬新なアイデアを取り入れ、私たちが考えるまちづくりプランである「小さなおとぎの城下町」を一緒に作り上げる。

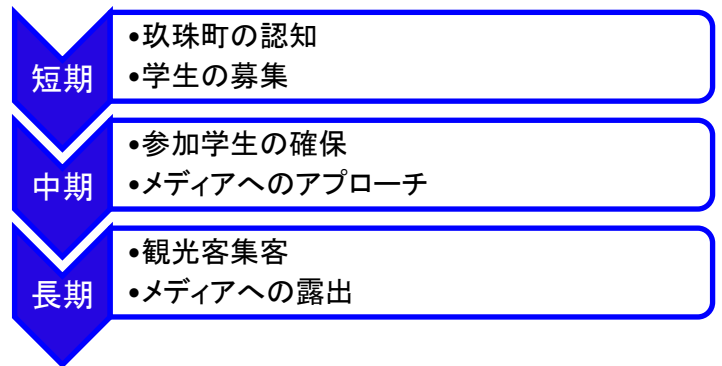
本プランが実現したならば、問題提起で上げた、「童話の里」として認知されていない、「活気がない」、「若者が少ない」は、まちづくりをする過程において解決する。

豊後高田市で昭和の町が成功し、メディアに大きく取り上げられたので、「おとぎの城下町」も注目される。

## 3. 提案プランの新規性

本プランの新規性は、一過性ではなく、短期、中期、長期と長くに渡る「まちづくりプラン」を提案。

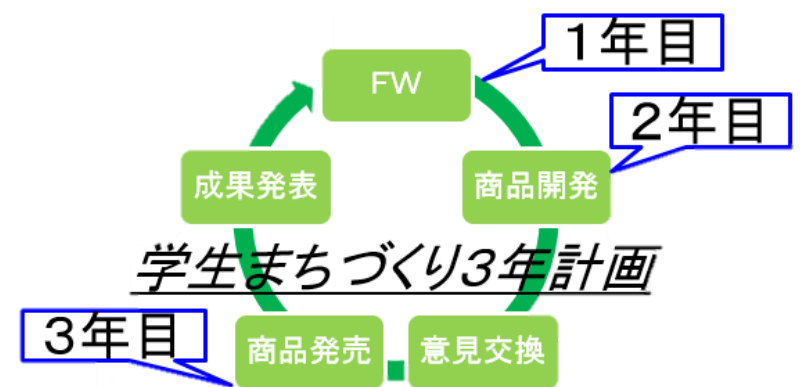
現在、観光客も訪れない玖珠町で住民と若者である学生による交流を行うことによって町が賑わう。そして、このプランが成功すれば、他の観光資源が少ないところでもプランを取り入れ、新しい観光地とすることができる。また、女子大生がまちづくりをマネジメントということで話題にもなる。



## 4. 提案プランの実現計画

《自分が学んで得た知識や技術が活かせる課外活動があったら参加してみたいと思うか》と大学生300人にアンケートしたところ89%の学生が参加したいとの意思を見せてくれた。

また、福岡キャリアリー製菓調理専門学校、大分県立芸術文化短期大学、中村学園大学短期大学部、崇城大学、長崎国際大学、九州産業大学、福岡建設専門学校の九州の大学・専門学校の7校に賛同をいただき、また関東圏でも跡見学園女子大学、千葉大学園芸部、聖徳学園女子大学の3校にも賛同いただいたので、本プランが実現した際には、協力・参加していただける。



## 5. 提案プランが実現した場合の効果

「おとぎの城下町」という新しい観光地化  
観光客以外での若者誘致  
玖珠町の認知度向上  
地元住民との交流  
観光客が訪れることにより周辺の飲食店、宿泊施設、温泉施設などの利用者向上